

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価 担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境総務課
	施策	地球温暖化対策の推進		電話番号	087-839-2388
	基本事業	低炭素社会に向けた行動の展開		事業実施主体	市
	事務事業	緑のカーテン事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	「高松市地球温暖化対策実行計画」において、適応策として積極的に推進することとしている「緑のカーテン」について、緑のカーテン講座の開催や周知啓発を行うほか、コミュニティセンターや学校などの公共施設における緑のカーテンの実施を推進する。				
年度概要	夏の省エネ対策にもなる、緑のカーテン作り方講座を開催し、積極的に地球温暖化対策に取り組むよう促す。 また、相乗効果を図るため、高松市脱炭素型都市推進会議による緑のカーテンコンテストを開催する。				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	市内の住宅、事業所及び学校・保育所・公共施設
意図（どのような状態にしたいか）	緑のカーテンを普及させることにより、温室効果ガス（二酸化炭素）の削減等、省エネルギーの推進を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① 緑のカーテン説明会実施回数	回	0	4	6	10	10
②						

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
緑のカーテン講座受講者数	人	目標値		100	100	200	200
		実績値		67	170		
成果指標① 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 環境ワークショップや出前講座への参加者が増加したことにより、目標を達成することができた。 (目標達成度) 							(達成度) 170.0% 35点
成果指標② 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕	838	815	1,559	1,559
（事業費）	〔千円〕	90	60	62	62
（職員人件費）	〔千円〕	748	755	1,497	1,497

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） 環境ワークショップや出前講座を通して、3年度に比べて多くの市民に緑のカーテンの効果を啓発周知できたが、引き続き、市民や事業所に対して認知度の向上や普及促進に取り組んでいく必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 令和5年度より、高松市脱炭素型都市推進会議と緑のカーテンコンテストを共催し、引き続き、緑のカーテンの普及啓発に取り組む。			

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価 担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進
	施策	地球温暖化対策の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	低炭素社会に向けた行動の展開		事業実施主体	市
	事務事業	電気自動車等普及促進事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	本市地球温暖化対策実行計画に基づき、市域における温室効果ガス排出量の抑制を図るため、走行時に二酸化炭素等を排出しない電気自動車を公用車として率先的に導入し、車体ラッピングにより市内を走らせるなど、環境負荷の少ない電気自動車の普及促進を図る。				
年度概要	車体ラッピングを施した公用電気自動車を、市内を走らせることで電気自動車の普及啓発を行うとともに、環境展等で紹介することで市民に電気自動車への理解を深めてもらう。 また、市が設置した市内3か所にある道の駅（近隣地を含む）の急速充電設備の運用を行うとともに、充電インフラの情報をHP等で提供する。				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	⑤内部管理事務

【事業の目的】

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	環境に負荷の少ない電気自動車を多くの市民に周知することにより、自動車の新規購入や買換えの際における電気自動車購入の意識付けを行う。また、市が設置した急速充電器の運営を行うとともに、市内の充電設備の情報提供を行うことなどにより、電気自動車の普及を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① 電気自動車（公用車）の走行距離	km	45,824	44,853	47,500	104,000	104,000
② 公用車における電気自動車導入数（累計）	台	9	9	9		9

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
成果指標①	市内における電気自動車保有台数	台		816	816	816	816	816
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 市内における電気自動車保有台数について、令和4年度は、当初の目標を370台下回った。 (R4 目標816台 実績446台)							
成果指標②	市内における次世代自動車保有台数	台		40,500	40,500	43,773	46,447	46,447
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 市内における次世代自動車保有台数について、令和4年度は、当初の目標を293台上回った。 (R4 目標43,773台 実績46,293台)							

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕	3,303	3,186	5,533	5,624
（事業費）	〔千円〕	1,058	921	1,043	1,134
（職員人件費）	〔千円〕	2,245	2,265	4,490	4,490

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
車体ラッピングを施した紅葉電気自動車を市内を走らせ、ゼロカーボンシティ展等で紹介することで市民に電気自動車への理解を深めた。また、市が設置した3か所（道の駅及びその近隣地）の急速充電設備の運用を行うとともに、充電インフラの情報をHP等で提供した。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
市内における電気自動車等保有台数は増加してきており効果は出ている。今後、公用車への電気自動車の率先導入や急速充電器の再整備等を進め、さらなる普及拡大を図る。			

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進
	施策	地球温暖化対策の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	低炭素社会に向けた行動の展開		事業実施主体	市
	事務事業	ゼロカーボンシティ推進事業		事業期間	令和 3年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	令和2年12月に宣言した「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた事業である。宣言後、脱炭素社会の形成に資する施策を総合的・計画的に推進するため、市長を本部長とする全庁的組織として脱炭素社会推進本部を設置し、全庁挙げて、市民や事業者・関係機関と連携を図りながら、脱炭素ライフスタイルの普及促進や脱炭素に向けた地域づくりに取り組む。				
年度概要	○脱炭素型ライフスタイルの普及促進 ・脱炭素型ライフスタイル普及促進事業 市民、関係機関、事業者等と連携し、脱炭素型ライフスタイルへの転換を目指す取組を推進する。 ・給水スポット設置事業 マイボトル利用促進のシンボルとなる給水スポットを設置する。 ○市役所の率先実行 エコシティたかまつマネジメントシステムの改定など、市役所の率先実行を推進する。 ○脱炭素先行地域づくり 事業者や関係機関等との連携による脱炭素化を推進し、脱炭素先行地域の選定を目指す。				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	2・⑤	事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）

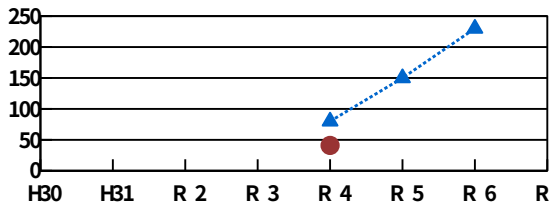
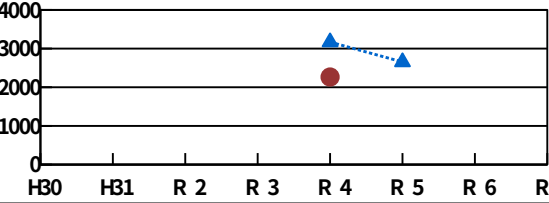
【事業の目的】

対象（何を）	市内の温室効果ガス
意図（どのような状態にしたいか）	高松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の2030年度の温室効果ガス排出量削減目標（46％）を達成する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① 民生部門の温室効果ガス削減比率（2013年度比）	%			36.1	36	
②						

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
脱炭素型ライフスタイル推進リーダー登録人数（延べ人数）	人	目標値			80	150	
		実績値			41		
成果指標① 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 予定通り、脱炭素型ライフスタイル推進リーダー養成講座を開催し、参加者は確保することができたが、登録の煩わしさや、登録することのメリットが見出せないことから登録にまで至らないと思われる。  （目標達成度）	 （達成度） 51.3% 17点						
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
本市域の温室効果ガス排出量	千t	目標値			3,169	2,654	2,654
		実績値			2,265		
成果指標② 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 達成した主な要因としては、1点目は電力の排出係数が2018年度0.462(kg-CO2/kWh)から2019年度0.445(kg-CO2/kWh)に下降したことによる産業部門からの温室効果ガス排出量の減少。2点目は排出割合の大きい運輸部門からの排出量が大きく減少したことが挙げられる。  （目標達成度）	 （達成度） 128.9% 35点						

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕			11,842	16,960
（事業費）	〔千円〕			616	5,734
（職員人件費）	〔千円〕			11,226	11,226

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
脱炭素型ライフスタイルの普及促進を図る各種事業に取り組んだ。今後さらに市民・事業者の理解を得て、実践を促していく必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
ゼロカーボンシティの実現は、困難な課題ではあるが、市民や事業者と総力を挙げて取り組んでいく。まずは、意識啓発や市の率先実行の取組を進めながら、事業者等との連携のあり方を模索し、今後、国の交付金や補助金の活用を視野に、市として実施すべき取組を鋭意進めていく。			